

令和5年産

大豆情報 (Vol.3)

令和5年9月5日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからもご覧いただけます！



今後のポイント: 病害虫・雑草防除、排水対策の再点検、収穫機械・乾燥施設の点検・整備

6～8月の気象経過と一か月予報

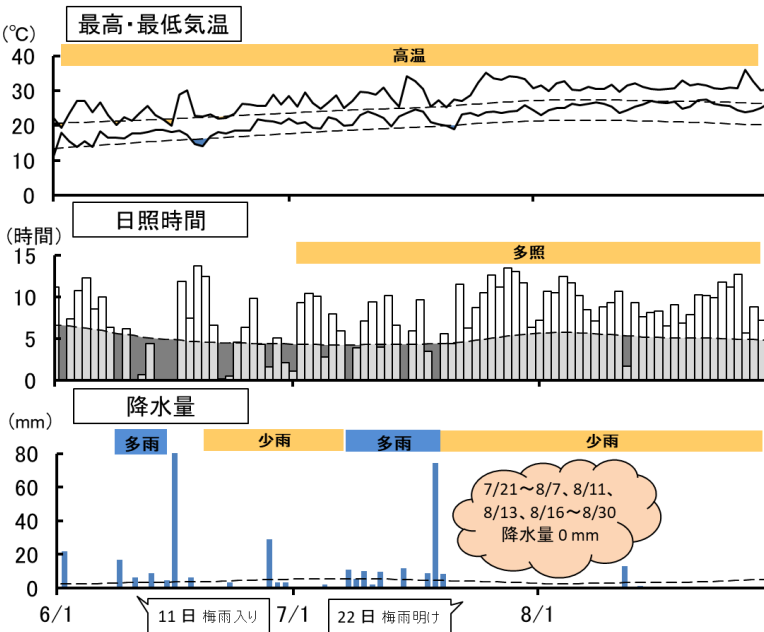


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温、中: 日照時間、下: 降水量
※点線は平年値

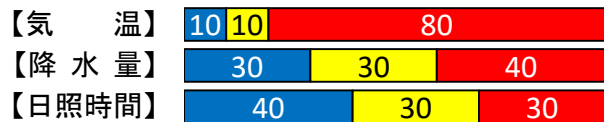
◆8月: 高温多照、少雨

- ・平均気温は平年より+4.2℃高くなりました。
- ・日照時間は平年比 172%と高くなりました。
- ・降水量は平年比 15%と少なくなりました。

◆向こう1か月予報(9/2 ~ 10/1)

仙台管区气象台8月31日発表

1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率(%)



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

1週目: 9/2~8、2週目: 9/9~15、3~4週目: 9/16~29

生育調査(9月1日)結果

主茎節数と分枝数はほぼ平年並。

表1 9月1日生育調査

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			開花期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/20	+10	+8	8/04	+5	+5	51.6	+13.6	-11.5	12.3	+5.7	-0.2	2.8	+0.1	-0.1
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/26	+4	+15	8/06	+4	+5	54.4	+3.7	+0.3	13.7	-0.5	+0.0	2.6	-0.4	-0.4
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/03	+1	-13	7/31	-3	-11	88.7	-4.6	+9.6	15.5	-1.5	+0.2	3.7	+1.2	+0.4
ミヤギシロメ (麦あと)	城内 (桃生)	6/21	+0	+1	8/08	-5	-5	90.3	-1.9	-3.2	16.5	+0.6	+1.0	3.0	-0.6	-0.8

平年差・比は、H30~R4の5か年平均(平年値)との差・比、「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

- ◆ 主茎長は、品種・播種日によって異なり、タンレイと城内ミヤギシロメでは平年を下回り、タチナガハでは平年並み、小船越ミヤギシロメでは平年を上回りました。
- ◆ 主茎節数は、城内ミヤギシロメが平年を上回り、それ以外ではほぼ平年並みとなりました。
- ◆ 分枝数は、城内ミヤギシロメで平年より少なく、それ以外ではほぼ平年並となりました。

今後の管理

◆ 排水対策

- ◎ 今後も、排水溝や明きよの点検・整備をするとともに、大雨が予想される場合には、地表排水の効果を高めるために、枕地のあぜを切って溝を作り、排水溝につなげましょう。

◆ 雑草対策

- ◎ 9月以降多くの雑草が種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリなどの難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょ。
- ◎ タデ類やアメリカセンダングサ、シロザ、イヌホオズキなどの大型雑草は、コンバイン収穫時に汚粒の原因となります。雑草が種子を作らないうちに手取り除草を行いましょ。
- ◎ 大豆落葉終期～収穫14日前までは「つり下げノズル」や「万能散布バー」を利用したラウンドアップマックスロード(対象雑草:一年生雑草)による雑草茎葉散布(大豆の茎葉・莢に直接かけないように散布する方法)が可能です。大型雑草は茎や果実の水分が低下しにくく、汚粒の原因となる場合があるので、手取り除草を行いましょ。



タデ類



シロザ



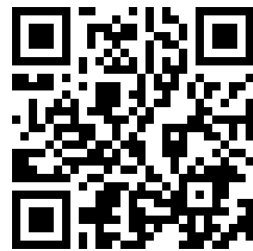
イヌホオズキ

- ◎ ほ場に落ちた種子は湛水(水田)状態でも3年以上は生存するので、ブロックローテーションによる田畑輪換で減少することはありません。種子をつけた雑草は、ほ場外に搬出しましょ。

- ◎ アレチウリや帰化アサガオなどのつる性雑草が畑に侵入しているほ場が確認されています。減収や収穫作業に重大な障害を及ぼす可能性があります。手取り除草を行いましょ。有効な土壌処理剤の利用や体系処理による防除が有効です(宮城県「普及に移す技術」第90号参照)。



ダイズ畑に侵入している帰化アサガオ



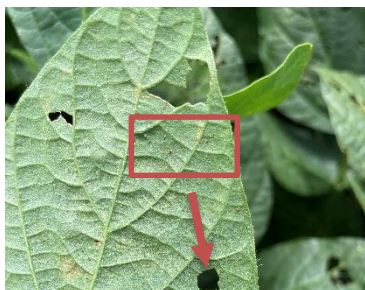
宮城県「普及に移す技術」第90号

8月下旬ごろから管内でハダニによる被害報告が相次いでいます！

ハダニ類: 多 (病虫害防除所 病虫害発生速報8/28より)

◎ハダニによる被害の特徴

- ・ **発生**: **高温乾燥**の気象条件で増加しやすいため、これまで管内では沿岸部での発生が確認されていましたが、本年は**内陸部(河南・河北・桃生等)**でも確認されています。
- ・ **症状**: ハダニに吸汁された部分は白く「カスリ状」となります。さらに被害が進展し葉全体に進むと黄色を経て褐色に変化し(下写真)、最終的には落葉し、枯死します。
- ・ **子実への影響**: 枯死しない場合でも早期落葉に由来する転流不足により、小粒化・しわ粒の増加などが想定されます。



ハダニ(2023年8月)

白くカスリ状になった葉(2023年8月)

葉が黄変した葉(2023年8月)

被害の程度から費用対効果を考えて防除の要否を判断してください。
なお、多発してからでは防除効果が劣ります。
防除する場合は少発生のうちに対処することを勧めます。

表2 ダイズで登録のあるダニ剤

商品名	IRACコード	希釈倍数 使用量	散布液量	使用方法名称	使用時期	総使用回数
マラソン乳剤	1B	2000~3000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日前まで	3回以内
トクチオン乳剤	1B	1000~1500倍	100~300L/10a	散布	収穫30日前まで	3回以内
コロマイト乳剤	6	1500倍	100~300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
ニツソラン水和剤	10A	2000~3000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
カスケード乳剤	15	4000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内
		32倍	0.8L/10a	無人航空機 による散布	収穫7日前まで	2回以内

令和5年9月1日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。